

**令和4年度
都道府県訪問看護ステーション連絡協議会交流会
報告書**

令和4年7月8日

開催日時：4年7月7日（木） 13：00～15：30

主 催：一般社団法人全国訪問看護事業協会

開催方法：WEB

参加者：木村代表、河添副代表

【内容】

1. 全国訪問看護事業協会挨拶 中島正治氏

2. 報告事項

1) 要望書の提出（6項目）

- I 訪問看護師野早急で大幅な人材確保と賃金引上げ等勤務環境の改善
- II 安心して暮らせる地域社会の実現を目指した訪問看護ステーションの大規模化・多機能化の支援
- III 新型コロナウイルス感染症対策における訪問看護ステーションの存続に対する支援
- IV 医療的ケア児や重症心身障がい児などとその家族が安心して在宅生活を送ることができる仕組みづくりへの支援
- V 訪問看護における ICT・AI・エコー等医療機器の活用促進の支援
- VI 在宅ケアにおける事故報告システムの開発

2) アンケート結果報告

① 地域医療介護総合確保基金の活用について

- ・特に取り組んでいないが16カ所で、理由は活動について検討したことがない、事務局体制が整わない

② 訪問看護ステーション連絡協議会の活動について

- ・訪問看護講師人材養成研修会受講の活動支援については自都道府県の受講者を把握しており、中には受講者同士集まる機会を設けているところもあった

③ 看護師の特定医療行為研修制度について

- ・利用者への看護の質の向上の為必要（83.0%）、事業所の質の確保のために必要（78.7%）と必要性を感じている回答が多かった

④ 地域医療介護総合確保基金以外の助成金制度についての情報提供

- ・している（26%）で74%はしていなかった。また、各ステーションが獲得した

助成金についても、94%が把握していなかった。

- ⑤ BCP 作成のための研修会の開催は 70%が実施しており、地域 BCP のネットワークは「ある」「検討している」を合わせると 76%にのぼった。
 - ⑥ 他県等訪問看護ステーション連絡協議会等と災害時等の連携の仕組みについては、「ない」が 55%を占めていた。
- 3) 在宅医療関連合志人材養成事業 訪問看護分野について（プログラムの紹介）
 - 4) 訪問看護ステーション向け特定高位研修制度の推進に資する PR 媒体作成事業
 - ・「看護師の特定行為研修ポータルサイト」開設
 - 5) 意思決定支援に関する情報ページの作成
 - ・地域ですすめる ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を R2. 3. 31 に開設
 - ・実践例等掲載
 - 6) 事業所自己評価ガイドライン普及・活用促進インセンティブとしてのロゴマークの作成
 - <運用方法>
 - ・評価を実施した事業所が、ホームページにロゴマークを掲載する
 - ・重要事項説明書に記載する
 - ・情報公表時に記載する
 - ・パンフレット、ポスター、冊子に掲載、またシール等を作成し活用する
 - 7) 訪問看護ステーションの質の確保と安定的な事業運営に関する実態調査結果（結果の資料のみ）

3. ブロック会議

* 地域連携の実践例の発表の後、各グループに分かれ話し合う

テーマ 1（共通）：実践報告を受けて、各都道府県訪問看護ステーション連絡協議会における訪問看護ステーションの BCP 策定支援の取り組み

テーマ 2（G で選択）：アンケートで得られたテーマ①～④（資料 1）

<地域連携の実践例の発表>

「長野県における訪問看護ステーションが一時縮小・閉鎖した場合の連携体制構築後の課題」

公益社団法人長野県看護協会須高訪問看護ステーション 所長 中村ひとみ氏

- ・長野県須高地区（4 ブロック） 訪問看護ステーション 180 件 連絡協議会加入 140 件（77%）
- ・約 7 割が常勤換算 5 人以下、機能強化型 24 件
- ・BCP の為の連携体制構築の流れとして、ブロック長が中心となり連携可能な地域を検討し非会員を含め 28G を編成→グループリーダーを決め実情に応じた連携方法の検討及び医師・居宅への協力依頼→各ステーションの事前準備（利用者・家族へ

の説明、グループ内での情報共有、訪問トリアージ)

<Q&A>

Q 他ステーションに依頼する際の訪問看護指示書は？トラブルは？

A 事前に医師会を通し医師に説明がされていたので特に問題はなかった

<グループワーク>

12G：ファシリテーター木村代表（長崎、鹿児島2名、沖縄2名、熊本2名）

【テーマ1】実践報告を受け手、各都道府県訪問看護ステーション連絡協議会における 訪問看護ステーション BCP 策定支援の取り組み

鹿児島：

- ・状況がつかめていない。地域差が大きく統一するのは難しい
- ・連絡協議会としては、研修会の必要性は上がっているが、講師が決まらないので結局個別に研修会に参加している

長崎

- ・BCP 進捗状況は各ステーションでバラバラ。完成のところもあれば手を付けていないところもある
- ・協議会として作ろうという動きもある
- ・外部委託で研修（寄付金）を行い、ひな形・運用研修会を行い9月頃の完成を目指している

沖縄

- ・BCPに関する研修会を2回開催し、今年度も継続する予定。
- ・BCPは事業所個別で作成。離島では横のつながりで協力し合っている
- ・医師会との協力が課題

熊本

- ・熊本地震を受け協議会の中に災害委員を設置し災害マニュアルを作成した。
- ・その流れで引き続きBCPの雛形を作成した。
- ・いずれもホームページに掲載している。

* 災害時の指示書に関して

- ・医師が書きやすくするためには、報酬化も検討する必要があるのではないか
- ・災害時については、書式は後付けでも支障はない

* コロナに関して

- ・鹿児島では数件陽性者に訪問した。訪問看護指示書の流れは事前に研修を受けていたのでスムーズだった
- ・熊本では、在宅医が発熱外来は協力できるが訪問はできないということで、入院が基本となり、陽性者への訪問看護は実施していない。しかし熊本市と協

議会が契約し、自宅待機者の健康観察の協力を行っている

- ・ 沖縄では、2年前から看護協会と連携し陽性者への訪問看護実施している。
- ・ 指示書に関しては各ブロックのコーディネーターの Dr からかかりつけ医へ協力依頼をしてもらうことでスムーズであった（やっぱり Dr は Dr 同士が good）
- ・ はじめは物品の不足があったが、補充は事業所で対応。のちに県や財団からの支給を利用

Q：長崎：施設でクラスターが発生した場合、施設へ看護師の訪問はできるのか？

A：沖縄：県からの委託で実際行っている（4～8時間）

クラスターの初回から入るので、その時点で施設看護師は不在の為引継ぎなしに介入することになるので情報収集が大変

【テーマ2】 12G はテーマ1 に引き続き連絡協議会の支援の取り組みについて新型コロナウイルス感染症の対応を中心に話し合った

長崎

- ・ 災害対応は看護協会からの委託で事業所に報酬が入る仕組み

熊本

- ・ 市と連絡協議会との契約で連絡協議会から事業所に委託。1日2名ずつ保健所で健康観察業務にあたり、謝金は事業所に振り込まれる。
- ・ 健康観察は日頃の訪問看護のスキルが役立つ

沖縄

- ・ 基本訪問ありきで個人受託
- ・ 高齢者、認知症の健康観察業務は難しい

長崎

- ・ 地域の横のつながりが大事。コロナで顔を合わす機会が減っている。
- ・ 熊本のペアステーションを参考にしたい。

鹿児島

- ・ 協議会が主導することはない。
- ・ 地域によっては「地域で支え合いましょう」と文章化しているところもある。
- ・ 離島等地域差があり、BCPをどう取り組めばいいのか・・・

沖縄

- ・ 協会立は低下傾向にある。この2年感で多数の開設があった（現在185）
- ・ 30代の病棟経験だけで開設しているケースが多発しており、入会を勧めても今はと断られる。（ブロックの活動に縛られたくない・・・）

熊本

- ・ 2年間コロナで活動が出来なかったためか、震災直後80台後半まで入会率が現在は77%まで下がっている。新規事業所、新管理者への働きかけが必要。

- ・コロナの2年間でステーションの開設が増えた理由として、病棟ナースがバーンアウトし予防接種系につく者とやりがいを求め開設に資金のかからない訪問看護に次の活路を見出す者の2分化が起きているのではないか。
- ・長野県では、みなしのステーションもグループ化しているが、熊本では非会員は除外し差別化を図る。入会した方がいいと思ってもらいたい。
(長崎も同様に差別化)

鹿児島

- ・1年で1.5倍になっているが休止・廃止も多い状況
- ・新規事業所に対して、質の担保や職場環境をどうするか課題。

4. 各グループの発表（抜粋5つのGのみ、12Gも発表）

<感想>

- ・当県では、連絡協議会が主導で災害マニュアル、BCPの作成に取り組んでおり協議会との連携体制が整っていることが分かった。
- ・新規事業所の参入に関しては、当県だけではなく同様の状況にあることが理解できた。
- ・新規事業所、新管理者に対するフォローアップ体制が、入会率回復のカギになるのではないか。
- ・コロナになりzoomが普及したことで、これまで参加できなかった会議や研修会に参加できるようになった。

<連絡事項>

*九州ブロックの交流会は、例年九州在宅推進フォーラムに合わせ開催していたが、今年は別にzoomでの開催を予定している。(秋頃)

以上